

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473200283
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	樹林の風
訪問調査日	平成22年12月27日
評価確定日	平成23年1月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200283	事業の開始年月日	平成9年10月28日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	樹林の風			
所在地	(〒241-0806)			
	横浜市旭区下川井町218-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.shuhokai.or.jp>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から13年、緑豊かな環境の中、家庭的な雰囲気のもと、入居者の方がのんびりと生き生きと生活出来る様、職員一人ひとりがその伝統を自覚し、入居者本位のサービスを提供出来るよう心掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年12月27日	評価機関 評価決定日	平成23年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①経営母体は有名な秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、事務所の目立つ所に掲示すると共に、パンフレット・名刺にも記載されている。秀峰会の基本方針には「地域社会の福祉向上に貢献」を謳い、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。事業部制ではグループホームの横の連携において大きな成果を上げた。法人の「人に愛”つまり”人が中心」という理念のもと、利用者を中心としたケアを進める中で、家族、地域の方々そして職員もその範疇に捉えながら日々の活動を推進し、その様な姿勢のもと、秀峰会の一員として、そのブランド化の共有を図っている。ロケーションは国道16号線バイパスの下川井インターに近い位置にあり、二俣川からのバスの便も良く、ご家族が訪問しやすい地理にある。佇まいは1ユニット1戸建てであり、こじんまりとして付近の住宅と馴染み、違和感が全くない。ご利用者に対しては、介護ポリシーの「居心地の良い場所作り、雰囲気作り、笑顔作り」を実践している。秀峰会では先駆的にアニマルセラピーを介護に取り入れ、ここ樹林の風の愛玩犬「風子」は和みを与えてくれている。グループホーム同士は有機的に一元化し、情報の共有化が図れている。医療連携体制では隣の御殿山クリニックと連携し、看護師についてもそちらの看護師と契約し、24時間体制で実施している。
 ②地域との関係では、町内会に積極的に参加（地域清掃・盆踊り・敬老の日等）し、推進委員会を通じて民生委員の方々にお伝えし、地域の活動へ繋げている。幼稚園の子ども達は、特養“さくら苑”に定期的に訪問して頂いているので、ご利用者は子供たちの合唱を楽しみに特養に伺っている。毎年の行事となっているバーベキューは年々参加人数も増え地域の恒例行事となっている。
 ③ケアの方針については、入所時、及び入所後含めて、様々な場面を作り出す材料として、厚いアセスメントを取るよう心がけている。例えば、ご家族のアセスメントはキーパーソンのみでなく、子供、兄弟、孫、近隣等、幅広く集めるように努めている。これにより、当初より介護計画に厚く反映が出来る。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	樹林の風
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「連帯の輪を無限に広げていく」近隣や地域との日々の関わりを大切にし、入居者の生活に良き幅が生まれるよう努めている。	法人の理念である「連帯の輪を無限に広げていく」に沿い、近隣や地域との日々の関わりを大切に、入居者の生活により良き幅が生まれる様に努め、地域社会への貢献を宣言している。理念については、朝礼で羅針盤を使って理念を唱和し徹底している。職員会議で項目の具体化について話し合っている。入居者のADL低下、重度化は淋しいことである。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	庭掃き、風子の散歩を兼ね近隣の方々との顔なじみの関係が作られている。毎年の行事となっているバーベキューは年々参加人数も増え地域の恒例行事となっている。	町内会に加入し、町内の清掃運動に参加、盆おどりにも2回に分けて参加している。犬の風子の散歩を兼ね近隣の方々との顔なじみの関係が作られている。ホームに住民票を置かれている方は、敬老会に参加している。毎年行事となっている、樹林の風でのバーベキューは年々参加人数も増え、地域の恒例行事となり良好な関係が築かれている。法人として障害者の雇用の動きがあり、三ツ境の養護学校の生徒の職業体験実習を受入れた。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に積極的に参加（地域清掃・盆踊り・敬老の日など）又推進委員会議を通じて民生委員の方々にお伝えし、地域の活動へ繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ボランティアの受け入れ、日々の活動交流など写真を見て頂きながら状況把握できるようお伝えしている。又ご意見アドバイスなどいただいた際は、スタッフにしっかり伝え日々の活動に活かしている。	メンバーは地域代表（地区社協副会長）、民生委員、地域包括支援センターの方、旭区職員、ご家族、ご利用者それにホーム関係者で偶数月第2金曜日に実施している。運営推進会議ではボランティアの受け入れ、日々の活動交流等、写真を見て頂きながら状況把握が頂ける様にお伝えしている。又、ご意見・アドバイスを頂いた際は、スタッフに周知徹底され、日々の生活に活かしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会でも、日頃の状況はお伝えしている。グループホームへ関心ある方、入居希望の方など、いつでも見学いただけるようお伝えしている。	旭区は福祉に熱心であり、協力体制にある。運営推進会議でも、日頃の状況はお伝えしているが、グループホームへ関心興味のある方、入居希望の方など、いつでもご見学頂ける様お伝えしている。旭区のグループホーム連絡会、横浜市グループホーム連絡会の旭・瀬谷部会にも参加している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への理解は事業所内研修を行ったり、日々の業務でスタッフと共有している。	帰宅願望があり、外に出ようとされる方は職員と一緒にいるなどし、玄関の施錠はしていない。身体拘束への理解は事業所内研修を行ったり、日々の業務でスタッフと共有している。マニュアルの充実にも全職員で取り組んでいる。言葉遣いについてはお互いに注意し合うようにしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	徹底的に外部研修などへ出席し全職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後は、管理者以外の職員にも学ぶ機会を作って行きたいが、現在その制度を活用されている入居者が居ない事も今後の課題とする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の相談に沿ったペースにて説明を行ない行き違いの無い様努め、その都度ご理解頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内にも掲げている。	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内にも掲げている。ご家族との関係は良好であり、ご意見等は来訪時にお聞きして、業務に反映するように努めている。面会にみえたら変化が無くとも最近の様子を伝えるようにしている。利用者については、誕生日会などで何が食べたいか聞き、要望に対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時は勿論だが、毎月定例会議を行う中で常に改善に努めている。	日々の申し送り時は勿論とし、毎月定例会議を行なう中で常に改善に努めている。正規職員については目標管理を実施しており、面談を年2回実施し、処遇にも反映している。準職員についても同じ書式で展開している。その他職員については年度更新時に面接を行なっている。意見については会議、申し送り時にも出せる状態にある。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意分野での活動を伸ばし、同時に段階にあった研修をコーディネートしている。スタッフ間の良き連帯にてやりがいのある職場に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量見極めながら、日々の業務で新たな課題を出したり、外部の研修などに参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	秀峰会グループホーム8事業所13ユニットあり。月一回の頻度で各ユニットより1名参加する形で業務に付随した研修があり出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、スタッフと居室にてお茶などを飲みながらリラックス出来る環境の中で、ご本人の意向や思い、困っている事など、しっかりと受け止め信頼関係を築いてゆく。不安の訴えなどあれば、随時対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談初期の段階より利用に至るまで来所時や電話での問い合わせ時など現在のご家族の不安や介護の負担等しっかり受け止め具体的にアドバイスを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期の段階で対象者や家族のニーズを見極め、たとえ利用に繋がらなくとも、その時必要としたサービスの紹介に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩とし、学ぶべき事も多く、生活を共に楽しみ、日々の暮らしを充実した物に出来る様、共に支えあう関係を築ける様努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に生活状況をお伝えしご本人を共に支えていける様行事参加へもお誘いしている。楽しい時間を共有する中で安心して生活を送って頂ける様努めている。又、受診の付き添い・外出・居室内の衣類の衣替えなど可能な限りご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた個々の生活習慣を尊重し馴染みの場所や家族以外にも親交があった方々とも疎遠にならない様バーベキューへのお誘いや面会の機会を提供頂ける様働き掛けている。	これまで培って来た個々の生活習慣を尊重し、馴染みの場所やご家族以外にも親交があった方々とも疎遠にならない様、バーベキューへのお誘いや面会の機会を提供できるよう働き掛けている。地域の方も多く、このホームにも定着し安心した生活が送れている。利用者は此処を第2の自宅として近所との関係も良好に暮らしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の日々の生活状況、性格なども含め共に協調し合い共に共感し一体感や達成感、充実感を感じられる様コーディネート出来る援助に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を始め、季節の催しに招待するなど交流としている。又何か相談事など困った時には、いつでも相談に乗る事等お伝えしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向を出来る限り生活の中に取り入れる事の出来る様コミュニケーションをはかり、コーディネートに努めている。	ご本人の思いや意向を出来る限り生活の中に取り入れる事が出来る様、職員は、コミュニケーションに努め、把握に努めている。入居時のアセスメント、年月による変化などを参考にしながら介護計画に反映している。状態が変化した時には出来ること出来ないことをシートなども活用し、本人の発言の裏にある思いなども考え、ケース記録に記載するようにしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の方々のバックグラウンドの把握に努め、利用に至るまでの生活歴をお聞きし（一人でも多くのご家族から見たその方を知る）より良き介護、サービスへと役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り入居前の状況を把握した上でご本人の現状、状態を含め、日々申し送りにて周知しながら確認、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人始め、ご家族関係者から聞き取りを行い必要な場合には、アセスメント策定にご家族関係者にも関わって頂きより良い介護計画ができる様努めている。	モニタリングは本人始め、ご家族、関係者から聞き取りを行い必要な場合には、アセスメント策定にご家族関係者にも関わって頂きより良い介護計画ができる様努めている。基本的に3ヶ月に1回、ADL低下に伴う変化がある場合には随時、変更を行なっている。介護計画策定については、ある程度具体的に落とし、出来ること、実現可能な目標にするようにしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動内容、気付きや様子など個人記録とし、夜勤者より日勤者へ、日勤者より夜勤者へと一日2度の申し送りにて情報共有としている。又それを踏まえ介護計画にも繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人は勿論の事、ご家族のニーズに対し出来る限り対応して行く様努めている。(買い物・外食など)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々との繋がりを大切に共に楽しめる環境を考慮している。地域のお祭りや消防訓練など、民生委員の方々を通じて交流が続いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重し納得の得られた主治医と連帯が取れる様努めながら、希望がある場合には、主治医となる事の出来る様往診医を紹介している。	医療連携体制では隣の御殿山クリニックと連携し、看護師もその看護師と契約し、24時間体制で実施している。本人、ご家族の意向を尊重し、納得を頂きながら主治医と連帯が取れるように努め、希望がある場合には、主治医となれるよう、往診医を紹介している。往診医は2週間に1回往診に来てくれる他、隣りなので通院も併用している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診担当看護師に日頃のご利用者の状況を把握頂き体調変化があった際など、ドクターの指示または、往診にて対応にて支援頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した時状況把握の為早期退院が可能かどうか確認する為、病院を訪問し必要な情報交換を病院関係者（看護師・担当医・ソーシャルワーカー等）と行っている。退院が長引くなど、進路検討必要な際にもご家族、関係者と共に検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議や日々の申し送り時に利用者への対応の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出ているか皆で再確認する機会を持っている。	会議や日々の申し送り時に、ご利用者の対応の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出来ているか皆で再確認する機会を持っている。往診医と訪問看護を含めて24時間対応を行っている。入所時には医療連携体制の同意書を頂いており、終末期寸前には医師を交えてご家族と三者で話し合い、方向性を決めるようにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要時には迅速に状況に照らした様救急対応時のマニュアルの改訂を行い、各職員に周知徹底を図りつつ会議時などに定期的にシュミレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと火災時の避難通路を確保している他、近隣のお宅に火災時の協力を頂ける様日頃から民生委員や自治会長にその旨の依頼を行ったり、地域推進会議等で働きかけを行い了解を頂いている。	消防署の指導のもと、火災時の避難訓練を実施している。近隣のお宅に火災時の協力を頂ける様に日頃から民生委員や自治会長にその旨の依頼を行ったり、地域推進会議等で働きかけを行ない、了解頂く等、協力体制を築いている。11/27に夜間想定避難訓練を実施した。備蓄は外の倉庫に3日分準備がある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や日々の申し送り時に利用者への対応の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出来ているか皆で確認する機会を持っている。	会議や日々の申し送り時に、ご利用者の対応の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出来ているか皆で再確認する機会を持っている。人格の尊重やプライバシーに関する研修も常に行い、職員は充分理解している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しい方でも、個々の状態に応じて、表出出来る様な働きかけを行い、それが最大限可能な様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、その場の個々に合った臨機応変な対応を心がけ、傾聴しながら、自己実現が図れる様な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の意向を尊重した支援を心掛けている。馴染みの店がある方には家族に付き添いを依頼するなどし、それ以外の方には、施設に有償ボランティアを定期的に招き、散髪が出来る機会を設けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる各場面においても「出来る事」を重視したコーディネートを行い、個々の残存能力に応じた働き掛けを心掛けている。	食事は独自のメニューで、ご利用者の希望を聞き、一緒に買い物に行き提供している。メニューは1週間分、意向を聞きながら決めている。食事に関わる各場面においても「出来る事」を重視したコーディネートを行ない、個々の残存能力に応じた働き掛けに配慮している。検食報告書を書いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れつつ、個々のご利用者の状態に合わせた調理を行い、各人の摂取量を毎食ごとに記録を残し申し送りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による指導のもと、個々の状態に合った口腔ケアが確実に出来る様、声掛け、見守りを行い、時には職員が磨き残しが無い様、仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が、何処に有りそうか、検討を行っている。極力トイレで用が足せる様、各々のインターバルを見ながら、お声を掛けてトイレに誘導し、その情報の共有に努めている。	日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が、何処に有りそうか、検討を行ない研鑽している。極力トイレで用を足せる様、各々のインターバルを見ながら、お声を掛けてトイレに誘導し、その情報の共有に努めている。お声かけは、インターバルの他、外出前、食事前後も気をつけて配慮している。サインを見逃さないで誘導するように心がけている。便秘については自然の排泄を促すよう牛乳等の食品や体を動かす（お風呂、風船バレー、浜ちゃん体操等）などで対応している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヤクルトやヨーグルトを10時のお茶の際は牛乳をベースとした飲み物を飲んで頂き、決して投薬だけに頼らず食物繊維を取り入れたメニューを心掛けている。散歩やアクティビティーを兼ね適度な運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間による入浴は行っていない。各々のタイミングや希望を取り入れて気持ち良く入浴を楽しんで頂いている。	2日に1回の頻度を原則としている。曜日や時間による入浴は行っていない。一人ひとりのタイミングや希望を取り入れて、気持ちよく入浴を楽しんで頂いている。入浴は好きな方が多く、午前中を好む人が多い。嫌がる人には時間を開けて声をかけたり、それでも駄目なら翌日など柔軟に対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、各々の方の習慣や日中の活動状況を踏まえながら、快適な睡眠や休息が取れる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の主治医からの話や個々の処方箋の内容を誰が見ても分かる様な形でファイリングし、その内容については全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を踏まえその方の力を発揮できる場面や役割を日々の生活に活かし張り合いを感じ楽しんで生活していける様努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の意向に添い買い物や外食へ出掛けられる様支援している。又地域の交流場所へも、参加し交流へも繋げている。お墓参りなど遠出となる場合はご家族と相談し可能な限り支援に努めている。	出来る限りご本人の意向に添ってお買い物や外食へ出掛けられるように支援している。又、地域の交流場所へも参加し、交流へと繋げている。お墓参り等、遠出となる場合はご家族と相談し、可能な限り支援に努めている。同じ法人のグループホーム同士の交流で、他のグループホームに遊びに行ったり、さくら苑の催し物に行ったり、外食に出たりしている。個別対応の一環として出不精な人が落ち着いた時を見計らって外に出るようにしたりしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じ、買い物時のお支払いをお願いしたり、自己保管して頂いている。外出時など、自ら選び購入する喜びなどお金を使う楽しみを味わって頂ける様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を始め葉書のやり取りを行っている。電話などご本人訴えられた際は時間に十分配慮し、ご本人が自らかけられる様コーディネートしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住んでいる方々は勿論の事だが、訪問された方が季節を感じほっと出来る環境へも配慮している。また、不快と感じる音や光温度設定など、常に気を配っている。	生花は絶やさないようにし、ご利用者、訪問された方が季節を感じて頂いたり、ホッと出来る環境作りに配慮している。また、不快と感じる音や光温度設定等にも常に配慮し、絵や写真なども掲示し、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。カラーボードを月1回第3日曜日に実施している。ぬり絵のようなものであるが、基本は色を中心とし手先生と話をし、暖かい雰囲気を持つこと、色の傾向で気分の判断が出来ることなどが目的である。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには寛げるソファやテーブルを置き落ち着いた空間を心掛けている。又不穏時不安の訴えなどあった時には、スタッフとゆっくり話しの出来るプライバシーを守る場所にも配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々で馴染みのある家具類を持ち込まれているが、ご本人にとって居心地良く、安心・安全・快適な居室作りのお手伝い、演出を心掛けている。	個々にこれまで馴染みのある家具類を各々持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地良く過ごして頂ける様、安心・安全・快適な手伝いを心掛け、空間演出にも配慮して工夫に努めている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の出来る事出来ない事をしっかりと認識した上で、出来る事を共に行い、ご本人にも充実感を感じて頂ける様配慮している。又見守りと声掛けにて出来る限り自然な形で介助を受けず生活していると思っけて頂ける様努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

樹林の風

作成日

平成22年12月27日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災時の対応面の更なる強化を進めていく	避難訓練の内容を検証しながら一人一人の職員が対応を身に付ける。	①引き続き近隣のお宅の協力体制を確保していく。 ②計画の段階で訓練内容を綿密にシュミレーションし、実践的な内容となる様、組み立てていく。	年2回 (今年度～次年度)
2	13	外部への研修参加を更に進めていく	専門性の向上を図る。	引継ぎ一人一人の職員の意向、適性を考慮しながら経験に応じた内容のものに参加出来るようコーディネートしていく。	年数回 (今年度～次年度)

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。